



通の書

特 別
F12
3656
29



412
3656
29



茅

シカ

よきひらるゝと名をきくやぐ
下三二二二二二二二二二

佛は寺なるん ちやうよん

者はお機國田代とアと〜

うせきやうとア者少くんわ

善光さ乃ぬまうり一七日

中一久ハあり〜みは長を

前してはは〜は河内國

お師さへ集りてやとまひひる
る行上、
すてこつやひきりわける
世中をづくまご思ひは流撮衣
きのよ乃山をあとよるそなを
り方いさし海もるくくる
西乃空乃わらくれの雲習まわ
あまももさや河内なるお師は

里もも集まらわ
長月乃

るも格乃秋をえそ照やめ集れ
お師はあも
な我時残るをと

とそや松風ひとわ志く好らん
サ
是よ出たる老人はは里乃名も

お師寺の佛袂は流く人寸考也
り類也利をい撰くおが事也共

わきへ、誓ひもつけたりきさ天満
神乃、あゆまのあゆまをさへいふ
清道、くまのあやまをさへいふ
あまのこゝろ、たのめのため
いさやあゆまをさへいふ
神さよ、体松のたうへ
秋く、雲を言ひてさへいふ

トあり

トあり

露乃、方たのこゝろへて神よ
清く、人まのあやまをさへいふ
あまのこゝろ、たのめのため
いさやあゆまをさへいふ
神さよ、体松のたうへ
秋く、雲を言ひてさへいふ

トあり

トあり

トあり

あまのこゝろ、たのめのため
いさやあゆまをさへいふ
神さよ、体松のたうへ
秋く、雲を言ひてさへいふ

あまのこゝろ、たのめのため
いさやあゆまをさへいふ
神さよ、体松のたうへ
秋く、雲を言ひてさへいふ

當寺よ集りて人の中の人なり
あひ中々憂患のやう候はるるを
尸たぐひ三白 一きかふる事しを
身ものか先は夢想乃様をば
老人ふ法物終るゝ素願りして
さ中終人てへひろめ尸る海一
早
慈悲しやんさ〜ハ集尸る會一

寺中終人ニふはひろめりへ
いり尸ひ和行 是にお様國田代と
尸所よりす志やうと中ひ〜里
あへんり我急佛往を乃心〜
あによわ此存信濃國善光寺へ
まゝるゝ一七の集終尸あよみ集
見は〜終は尸をひ〜さ〜うみ

衣よらうは素戔嗚尊の御心
老僧乃ありたを成りて息もそ
ゆえ伊弉主のちりぬる一はよ
魁なる志りしに正後内河内國
出師さる大神一は伊弉主なる
皮所は神明を始りて七社乃
神一は坂勸修寺されしわき

天神の一切宿を現る二世乃為
五部乃大衆を御付密一は
理ま神たるも軸もわ木櫃柄乃
木を出さるる能く神とよむわ
教録と一は伊弉主及尸と一は
徒を類ひたりしとよむりして
爰をめぬる人ほりありしき

清志を安らう 早稲 かしはあ、熟き得る

あうふりし母お面さ中の人しよ

あま中人あし先喉と你と祇人

木樵村を忍勢中人あしはさへ

清出人 早 ちんちんやんちん清作

中人あし 早 是小神のを始事

七社八寺とをいふしんされし

あしあしあしあし天神よて清座人

あまよあまよあまよあまよあまよ

清物かころる人木樵村よてん

あしあしあしあしあしあしあし

ありうしや神も佛も一神とけ

尸ととも天神同さ乃は結縁と

あまあまあまあまあまあまあま

SHIRAZI 一一一三三

早稲

有祿おと子に可代よ孫を
 神も得世ふ道一孫ひて擧ぐ
 西朝ふうはわ新ふ 二月下於
 子日し一て朝出さそをたまひ
 法々いよお師の里ふ孫おあはしそ
 擧ぐ乃は神一物をとくめ未代
 值速乃法結孫々よたふふ事

あり一痛てもとまぬる聖を乃
 茶美能孫もきほははらうわ
 君、はせお乃枝をむくも
 うく孫くまては孫見うひる
 との法をうめきあうとあう
 のた一茶なき梅もいほ一ふ
 習うを新をぬ孫乃言たよわらふ

うわくろく　くまあ　こ　やまも
 木もく　皆　成　佛　の　こ　れ　ま　ま　を
 たま　成　け　め　あ　ひ　う　わ　う　あ
 枯　う　る　木　ふ　う　ふ　も　誓　ひ　乃　花　ハ
 何　く　ろ　う　し　ま　う　て　や　め　い　て　ん
 木　檀　栴　花　さ　き　見　る　成　法　鏡　を　よ
 実　や　花　咲　え　な　あ　ぐ　く　栴　花　さ　も
 上　地

あ　う　た　ま　し　乃　を　な　と　な　ふ　は
 こ　と　り　り　成　お　り　ひ　の　た　ま　の
 を　お　け　し　あ　お　栴　花　こ　乃　見
 あ　う　ろ　う　成　珠　乃　見　乃　わ　か　る　成　西
 き　は　米　尸　さ　ん　と　し　あ　ん　は　必　く
 こ　の　神　ハ　直　と　も　ま　を　て　我　ハ　天　神　は
 使　必　な　は　誰　と　も　あ　ら　ず　た　ま　の
 上　地

神と申おきまひこそみ常くもわ
志てすくわや志もくも
志よくわ 上巻 ひさうこみあまみ
いたとの神あうひまの思出も
おもろや 直巻 舞楽の巻く
とわく 三 民習志系
田村乃兼ハ更りともほどき乃

役夫あともなうきうきうたま
うきまをりし 上 もとまらたま
しきもかこや 上 寺みつり
とり 上 火めい 上 くわ 上 いろ
白太夫おまん七社のほあま
神儀馬楽 上 易柄子乃
巻くは 上 いろ 上 や 上 志 上 太夫

花^ハ何^ニも^ニお^もく^くと^も女^メ院^ノ

ふ^ふう^うふ^ふ白^ク赤^クの^ノ星^ノ雲^ノに^も依^ル

お^おひ^ひの^のま^まの^のや^やく^くな^なの^のゆ^ゆる^る—

た^たま^まの^のう^うら^らの^のや^やと^とま^まの^のや^やく^く

さ^さた^たま^まの^のわ^わら^らい^いろ^ろき^きを^をや^やく^く哉^カ

な^なら^らへ^へ奏^{ソウ}み^みな^なら^らぬ^ぬハ^ハ解^{トク}け^けと^とも^も

叶^ハふ^ふも^も—^カぬ^ぬも^も樂^{ガク}の^の—^ハら^らの^の—^ハら^らの^の—

さ^さい^いり^りの^の—^ハぬ^ぬは^は火^カ乃^ノう^うけ^けや^や

あ^あま^まの^のた^たま^まの^のさ^さか^か—^カの^のや^やく^くる^る

そ^その^の中^{ナカ}よ^よく^くの^のま^まの^のた^たま^まの^の小^コ急^{キウ}子^シ

袖^{スリーブ}の^のわ^わら^らの^のあ^あや^やの^のや^やく^くひ^ひの^のや^やく^く

ま^まの^のう^うら^らの^のま^まの^のあ^あや^やの^のま^まの^のあ^あら^ら

波^{ナミ}の^の音^ネ乃^ノま^まの^のた^たま^まの^のや^やく^くと^とま^まの^の乃^ノ

—^ハら^らの^の—^ハら^らの^の—^ハら^らの^の—^ハら^らの^の—^ハら^らの^の—

唯とてあはゆる舞歌乃女づく

七徳きう志やう七抱子ひきを

くはてて佛をうやまひさる

うひなまよ魔縁を縁おきじら

手りり青福なきよき子秋楽

ふは民を属あひ果業樂ふは

あをのふは法乃むるま志き

くくの松は綾うんはは流とき

木穂枝乃こは浦入りうたわて

ふはや一味お面風をうきそ

えたくまわこるをふはひ

おとてりのうき志やうり

あうんはうんはうん思ひ乃珠

をはうぬくうんは百八燈燈お

教ハ百ハ何人あう哉うんを
教採乃及のさおろはしんよ
祿樂乃夢ハきめあくら

